

月 日 ( )

キリスト教の商標① 名前)

めあて

キリスト教はどんなお店を開いたか、せうりじをい。

☆教か書 十六・十七ページを読んだから書かまじ。

一 お店の名前

Blank box for the store name.

二 お店の場所・おだん

Blank box for the location and date.

三 お店の名前「キリスト教」のじ

Blank box for the store name.

四 お店の名前をい

Blank box for the store name.

五、なにをちゆうもん

Blank box for the main message.

六、なにをちゆうもん

Blank box for the main message.

月( )日( )・日( )

きんぎょの商売② 名前

めい

1と2の場面(物語の中のこと)をまわしをせうじ

登場人物		登場人物	
登場人物がしたこと		登場人物がしたこと	
1の場面(十八ページから)		2の場面(十九ページから)	
場所・天気など		場所・天気など	
登場人物		登場人物	
きんぎょ		きんぎょ	
		野ねずみの家族	
野ねずみ			

おなま...おなま...おなま...おなま...おなま...

おなま...

めあて

「一場面のよしお話をしよう。」

「きつつきがした」と、言ったことには赤、うさぎがした」と、言ったことは青で線をひく。」

きつつきが、お店を開きました。

それはもう、きつつきにぴったりのお店です。

きつつきは、森中の木の中から、えりすぐりの木を見つけに来て、かんばんをこしらえました。

かんばんにきぎんだお店の名前は、こうです。

おとや

それだけでは、なんだか分かりにくいので、きつつきは、その後に、こう書きました。

「できたての音、すてきない音、お聞かせします。四分音符「こ」につき、どれでも百リル。」

「へええ。どれでも百リル。どんな音があるのかしら。」

そう言って、まっさきにやって来たのは、茶色い耳をぴんと立てた野うさぎでした。野うさぎは、きつつきの差し出したメニューをじっくりながめて、メニューのいちばんはじっこをゆびさしながら、

「これにするわ。」

と言いました。

ぶなの音です。

「四分音符分、ちょうだい。」

「しょうしました。では、どうぞこちらへ。」

きつつきは、野うさぎをつれて、ぶなの森にやってきました。

それから、野うさぎを、おおきなぶなの木の下に立たせると、自分は木のとべん近くのみきに止まりました。

「さあ、いきますよ、いいですか。」きつつきは、木の下から声をかけました。野うさぎは、きつつきを見上げて、こっくりうなずきました。

「では。」

きつつきは、ぶなの木のみきを、くちばしでかいたたたきました。

コーン。

ぶなの木の音が、ぶなの森にこだましました。

野うさぎは、きつつきを見上げたまま、だまって聞いていました。きつつきも、うっとり聞いていました。

四分音符分よりも、うんと長い時間がすぎてゆきました。

「四分音符分よりも、うんと長い時間がすぎてゆきました。」のとき、「四はどんな気もちですか、聞いていたか、考えよう。」

きつつききの販売④ (名前)

めいせい

きつつきき ヲ けつせいの ぎせむを せんべい ころん。

◎1の場面を読んだでから答えまじょう。

1 きつつききの文から書きまじょう。

「せあ、いきまますよ、いいですか。」「きつつききは、木の下から声をかけました。

1 きつつきき、きつつききは、どんな音で書いたでじょうか。○をひけまじょう。

・元気な声 ・やさしい声 ・しんぱいそうな声 ・かなしい声 ・おじつた声

2 きつつききの文から書きまじょう。

「せは。」

きつつききは、ぶなの木のみきを、くちばしでかいたたきました。

ころん。

ぶなの木の音が、ぶなの森にこえました。

1 きつつきき、きつつききがなりました「ころん。」と、きつつききは、どんな音で書いたでじょうか。

せは、まるいもの、せんべい、○をひけまじょう。

・大きい音 ・小さい音 ・おんべい音 ・あまひびかなしい音 ・高い音 ・ひんがし音

・みじかい音 ・長い音 ・ (音)自分で考えた音

3 きつつききの文から書きまじょう。

野うさぎは、きつつききを見上げたまま、だまって聞いていました。きつつきも、うっとり聞いていました。四分音符分よりも、うんと長い時間がすぎたゆきまじょう。

野うさぎ

きつつき

4 きつつききの文から「ぶなの木の音」の読み方をひけまじょう。1の場面を読んだで。

月 日 ( )

きつつききの商売⑤ 名前)

めあて

「この場面のおとややがきつつききのことよ。」

「きつつききがした」と、言ったことには赤、野ねすみの家族がしたと、言ったことは青で線をひく。

ぶなの森に、雨がふりはじめます。

きつつききは、新しいメニューを思いつきました。

ぶなの木のうろから顔を出して、空を見上げていると、

「おはよう。きつつききさん。」

「何しているんですか。きつつききさん。」

木の下で、声がしました。

見下ろすと、ぶなの木のねもとに、野ねすみの家族が、みんなできつつききを見上げています。

たちつぼすみれの葉っぱのかさをかたにかついで、上を見上げているので、みんな顔中びしょぬれでした。

「おとやの新しいメニューができたんですよ。」

きつつききは、ぬれた頭をぶるんとぶって、言いました。

「へえ。」

「今朝、できたばかりの、できたてです。」

「へえ。」

でもね、もしかしたら、あしたはできないかもしれないから、メニューに書こうか書くまいか、考えてたんですよ。」

「へえ。」

「へえ。じゃあ、とくべつメニューってわけ。」

「そうです。とくべつメニュー。」

「そいつはいいなあ。ぼくたちは、うんがいいぞ。それで、その、とくべつメニューも、百リル。」

「いいえ。今日のは、ただです。」

「よかった。ますますうんがいいぞ。ここに、おとやが開店して、すてきない音を聞かせてもらえらること

は、もうずいぶん前から聞いてたんだけどね。今日やっと、はじめてみんなに来てみたんですよ。」

「朝からの雨で、おせんたくができないものですから。」

母さんねずみが言うと、

きんぎょの商売⑥ 名前 ( )

なまえ

野なすみの家族の気もちをきいてください。

◎11の場面を読んでください。

⑤「父、野なすみの家族のせいで、野なすみ(父)が言ったことは(母)、子どもたちが言ったことは(子)のマークを  
かきかいた上を書きまわってください。」

11「ジャンキリトーヤは、なんの音でしたか。」

の音

13「野なすみの家族の子なすみたちは、なんびきでください。」

うき

14「きこした、昔を聞かせてもらおう前、野なすみたちは、雨の日はどんだと思っていましたか。  
15「うき、うき、うき。」

・ 気まかせでうき・うきもきこつ・しまらなつ・やりたうじやがどきなつ。

16「ジャンキリトーヤの音をきながら、野なすみの家族はどんだいよを思い出したかきこま  
うき。」

野なすみ(お父さん)

野なすみの母さん

野なすみたち

月 日 ( )

きんぎょの商売⑦

名前 ( )

めあて

三の場面を書きましょう。

◎自分で「きんぎょの商売」のお話を書いてみよう。

思い浮かばないときは、ヒントの「よば」も浮かべて書いてみよう。

一、登場人物を書きましょう。

- ・ 店の人・・・きんぎょ
- ・ おきやん・・・

(おきやんの動物) ・ たぬき ・ りす ・ きつね ・ むささび ・ しか ・ いたち

・ あらいぐま ・ くま ・ ひんげい ( ・ 自分で考えた動物 )

二、場所や天気を書きましょう。

場所

天気

三、メニューの音(何のどんな音か)を書きましょう。

・ 木をたたく音 ・ 風の音 ・ 竹をたたく音  
・ 川が流れる音 ( ・ 自分で考えた音 )

・ コツコツ ・ ココココ ・ ヒュルルル ・ カーン  
・ カンカーン ・ サラサラ ( ・ 自分で考えた音 )

四、きんぎょの音を聞いて、どんな出来事がおきたか書きましょう。(だれが何をした。)

- ・ 音を聞いて、楽しくなっておどりました。
- ・ さみしい気もちが、なくなつてやさしい気もちになった。
- ・ ずうっと、メニューの音につつまれていた。
- ・ 気もちよさそうに聞いていた。
- ・ うっとり聞いていた。
- ・ いいアイデアがひらめいた。
- ( ・ 自分が考えた出来事 )